

現場の失敗と
その反省
⑪-7

舗装工事の安全管理での失敗

1. 工事内容

当工事は平成18年度の7月から翌年3月に掛けて国道の拡幅及び歩道を建設する工事であった。土工、擁壁工、排水構造物工、車道舗装工、歩道舗装工を施工するものでした。

2. 工事の経緯

工事場所には、支障となる物件が多数点在しており支障物の協議等で工期が大分遅れ着工が11月下旬になってからの施工となり、時期的に厳しい工程でした。

発注者と協議した結果、支障物がある程

度残した状態で施工することとなり、残りの日数で工事を完成できるよう工程の見直しを行い、工事を3月上旬に完成できるよう検討し、施工を進めました。工事も順調に進み終盤にさしかかり、残工程も舗装工事を残すところとなった時に物損事故が発生しました。

事故当日の作業は、瀝青安定処理舗装を舗設している際に合材運搬に使用していた10tダンプトラックが施工場所に残置された信号感知器と接触し損傷した。事故車両は車輛誘導員の合図で待機場所に停車していたが、先に待機していたダンプトラックが誘導員の合図でアスファルトフィニッシ

ヤーに後進していったため車両一台分のスペースが空き、後続のダンプトラックのスペースを空けようと思い誘導員の指示を受けず自己の判断で後進し信号感知器に接触した。この事故により、1週間の工事中止となると共に損傷した信号感知器の修理などでプラス1週間、合計2週間の工程損失が発生しました。

3. 反省点

舗装工事のような購入資材運搬車両が多くで出入りする作業の際は、資材納入業者を含めた災害防止協議会を実施し、運搬経路及び場内の支障物情報などを密に打ち合わせると共に場内の支障物を確実に養生する。今後この事故を教訓として、二度と同じ過ちを繰り返さないように工事及び安全管理に取り組んでいきたい。



写真-1 損傷状況



写真-2 損傷状況



写真-3 修理完了

平面図

